

[果樹]

1. 常緑果樹

1) 温州ミカン

九州の温州ミカンは裏年にあたり、九州各県では生産量は平年より少なく、極早生は熊本で前年比 93%の他、宮崎と佐賀でそれぞれ前年比 70%と 79%、早生は福岡、熊本及び長崎でそれぞれ 82%、86%及び 76%であった。普通温州は熊本で 77%であった。

発芽期は総じて早く、長崎の早生では平年より 17 日も早かった。開花期は春季の気温変動が大きかったこと等から一転して平年並か 7 日程度遅れた。成熟期は極早生、早生、普通温州ともに平年並となった。果実肥大は平年並かやや不良であった。

極早生の糖度は平年並かやや低く、減酸も宮崎を除いて平年並かやや遅く、食味も平年並かやや不良であった。一方、早生では福岡で平年より 0.3 度低かった他は 0.2~1.1 度高くなり、食味も良好となった。普通温州も糖度が高く食味良好であった。なお、夏の記録的な高温により日焼け果が多発した。また、大分と長崎では 8・9 月に吸蛾類が多発したほか、収穫期には鳥害に見舞われた。

2) 不知火

熊本では、発芽期が 10 日早かったが開花期は平年より 4 日遅れた。果実肥大は平年並、成熟期も平年並、糖度は平年より 0.2 度高かった。減酸は平年並、生産量も平年並であった。夏季の高温により施設栽培では裂果が多発した。冬季は一転して低温となり乾燥したため、屋根掛け及び露地栽培では収穫後にコハン症が発生し商品化率が大きく低下した。

3) ポンカン

大分では、発芽期が 14 日遅く、着花量はやや少、開花期は 3 日遅かった。果実肥大と成熟期は平年並、糖度は平年並ながらも食味はやや不良で生産量もやや不作であった。鹿児島では、発芽期は 17 日早く、着花量は平年なみ、開花期は 5 日早かった。果実肥大・成熟期は平年並、糖度は平年に比べ 1 度高く、減酸は早く食味良好であったが、水腐れ症が多発した。

4) 甘夏

発芽期は 9~13 日早かったが、開花期は福岡で 2 日早かった他、大分と熊本で 2~3 日送れた。果実肥大と成熟期は概ね平年並であった。糖度は大分と熊本では平年並か高く食味も平年並であったが、福岡では平年より糖度が 0.9 度低く食味がやや不良となった。

5) ビワ

長崎の「茂木」では開花期が平年より 13 日も早く、果実肥大は良好で平年比 105%、成熟期は 3 日早かった。糖度は 1.3 度高く、食味と生産量は平年並であった。裂果が多発した。鹿児島では、発芽期は平年並、開花期は 5 日早まった。着花量はやや多かったが果実肥大は平年並、成熟期は 5 日早かった。糖度は平年に比べ 0.4 度低く食味はやや不良となった。紫斑症がやや多かったほかヒヨドリによる食害が多発した。

2. 落葉果樹

1) ナシ

発芽期は平年に比べ 3~10 日程度早かったが、3 月下旬、九州全県に渡って晩霜に見舞われ「豊水」「新高」では激しく凍霜害を被った。このため生産量も宮崎で平年並であったほかは平年比 69~84%と不作となった。着花量は、ほぼ平年並、開花期は 4~10 日平年より早かった。果実肥大は概ね平年並であったが、福岡と鹿児島では開花後 1 ヶ月間の低温や 6 月の日照不足により不良となった。成熟期は宮崎の「豊水」で 10 日遅かったほかは平年並か 2~4 日程度早

かった。糖度は福岡の「幸水」、大分「新高」及び宮崎「豊水」で平年より1度高かった一方、佐賀と鹿児島島の「幸水」で平年並、長崎「幸水」及び熊本のトンネル栽培「幸水」ではそれぞれ0.3度及び0.9度低かった。梅雨明け後から8・9月にかけて吸蛾類が多発した。

2) カキ

着花量は、福岡「富有」、熊本「大秋」でともに平年並であった。開花期は福岡で1日、熊本で8日早かった。成熟期は福岡で1日遅く、熊本は平年並であった。糖度は福岡で平年に比べ0.5度高く、熊本は平年並であった。生産量は3月下旬の凍霜害が激しかったためやや不作～不作であった。炭疽病の多発、8・9月のカメムシ類による加害、収穫期の鳥害が認められた。

3) ブドウ

開花期は平年に比べ1～12日程度早かった。果粒肥大は宮崎で平年に比べ不良であったほかはほぼ平年並であった。糖度、食味ともに平年並となった。生産量はやや不作～平年並であった。べと病や晩腐病が多発した。また、夏季の高温による着色不良が発生した。

4) モモ

熊本では、開花期は平年より7日早く、果実肥大は平年より良好、成熟期は平年並であった。肥大期ならびに成熟期の多雨と日照不足により糖度は平年より0.8度低く、食味はやや不良であった。3月下旬の凍霜害により着果不良であったが生産量はやや豊作となった。

5) クリ

熊本では、発芽期が平年より5日早かったが開花期は平年並となった。着花量はやや多かった。果実肥大は平年並で糖度は高く食味良好となった。成熟期は3日遅く、豊作となったが腐敗果がやや多かった。宮崎では平年並の生産量となったが、地球温暖化の影響で発育枝の二次伸長や不時開花、遅れ花の結果が顕在化している。

6) キウイフルーツ

福岡、大分でともに3月下旬の凍霜害が甚大で不作となった。果実肥大も不良で糖度も平年並かやや低く、食味も平年並かやや不良となった。花腐細菌病とキクビスカシバが平年よりも多発した。